

7 需用費 (備品費)

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
期始月	年日		円	銭	円	銭		
		豫算令達高			0		食	0
		水印何題(新調代)一箇金何程 切符何號	0				ノ	0
		何々何箇一箇金何程 何號何號	0				ノ	0
		本箱何箇修繕代一箇金何程 何號	0				ノ	0
		何月何日何々買上代ノ内過渡ニ付戻入						
		何々何號			0		ノ	0
		何々新調代 何號	0				ノ	0

需用費 (雜費) 8

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
期始月	年日		円	銭	円	銭		
		豫算令達高			0		食	0
		何月分廳舎借上料 切符何號	0				ノ	0

9

常時修繕費

(區役所修繕費)

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
明 月	年 日		円	銭	円	銭		
		豫算令達高						
		沿飲所小破修繕大工賃何人一人金何程						
		切符何號	0				0	

何々

(何々)

10

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
明 月	年 日		円	銭	円	銭		
		何々豫算令達高						
		何々	0				0	
		何々何々	0				0	

第九號書式

雜部金整理簿

廳名

現金

官廳寄託金

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
明細月	年日		円	銭	円	銭		
		何々金外何件受入	領收何號	0			借	0
		何々金受入	何號何號	0			シ	0
		何々金拂渡	振出何號		0		シ	0
		何々金トシテ何某外何名納	領收何號ヨリ何號				ク	0
		何々金ノ分拂渡		振出何號				ク

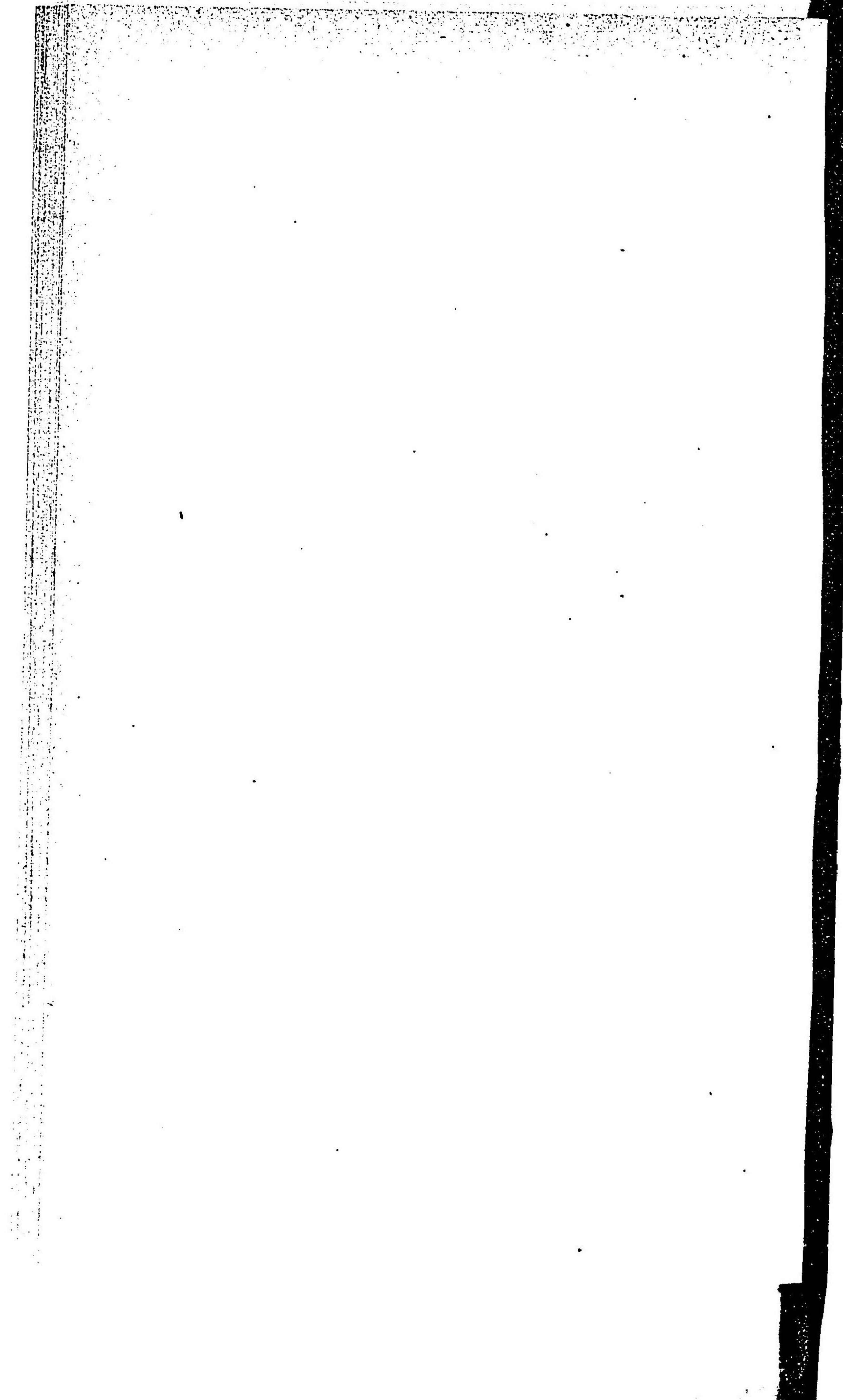
年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残	
明細月	年日		円	銭	円	銭			
		何廳ヨリ何某へ下渡スヘキ何々金	領收何號	0			貸	0	
		何々金何某へ下渡スヘキ分何廳ヨリ受入	領收何號			0			
		同上ノ分何某へ下渡ス		振出何號	0			ク	0
		撤水費トシテ何廳ヨリ交付ノ分	領收何號			0		ク	0

遺留財産保管金

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
明細月	年日		円	銭	円	銭		
		区内何町何番地何某失踪=付財産公賣代						
		受入			0		貸	0
		何某絶家財産公賣代受入			0		貸	0
		何某遺留財産保管ノ分成規ノ期限経過=						
		付所管廳へ送納ノ分 振出何號	0				借	0

寄附金

年月日		摘要	借方		貸方		借或貸	残
明細月	年日		円	銭	円	銭		
		窮民何某外何名施與方出願=付許可ノ分						
		何某納 領收何號			0		貸	0
		何町火災ノ節罹災者へ寄附金分配方出願						
		ノ分何某外何名ヨリ納 領收何號			0		借	0



(用紙 美濃紙)

明治何年度市街宅地々租割原簿

區役所各原簿ハ毎年度之ヲ
調製スヘシ其數ニ涉ルモ
ノハ一部限リ調製スルモ妨
ケナシ以下同シ

第十號

何區役所

凡例

- イ 印ハ一人別徴収額ヲ記入シ令狀ト割印シテ其肩ニ發付ノ月日ヲ記載ス
- ロ 印ハ納付済ノ副書ヲ市税金取扱所ヨリ送付シタルトキ之ヲ徴収額ニ照合シ記載ス
- ハ 印ハ不納者ヲ公賣處分ニ附シタル未追徴又ハ處分中收入ノ金額ヲ記載ス
- ニ 印ハ公賣處分ニ依リ其損失ヲ生シタル金額ヲ記載ス
- 印ハ主任ノ印ヲ捺ス

明治何年度市街宅地租割

地租還付金何程

何町何丁目

地租第	一期	二期	期番	地納人
一金何程○	何月何日 〔一金何程○〕 何月何日○領收○	何月何日 〔一金何程○〕 何月何日○領收○	何番地 何	某
一金何程○	何月何日 〔一金何程○〕 何月何日○領收○	何月何日 〔一金何程○〕 何月何日○領收○ 又ハ處分済收入	何番地 何	某

明治何年度商業稅原簿

第十一號

何區役所

本簿中會計卸賣仲買小賣等
ノ區分ハ見出シ紙ヲ付シ内
障ヲ爲スモ妨ケナシ

計 合

金 何 程 〇				
金 何 程 〇				
金 何 程 〇				
同 人 〇				

第十二號

明治何年度遊技場稅原簿

何區役所

本簿中球戲場弓場吹矢場
等ノ區分ハ見出し紙ヲ付シ
内譯ヲ爲スモ妨ケナシ

計 合

期後	期前	期後	期前	期後	期前	期後	期前	期後	期前
何 程○	何 程○								
金何程○									
金何程○ 内 金何程 不納○ 差引金何程○									
何 人○									

(月税ニ係ルモノハ此離形ニヨルヘシ)

明治何年度場号場稅稼續

				月額金何程 前々期金何程 後々期金何程 年計金何程	
月 十	月 四	月 十	月 四	月 十	月 四
月 一十	月 五	月 一十	月 五	月 一十	月 五
月 二十	月 六	月 二十	月 六	月 二十	月 六
月 一	月 七	月 一	月 七	月 一	月 七
月 二	月 八	月 二	月 八	月 二	月 八
月 三	月 九	月 三	月 九	月 三	月 九
				何 地 何 業 事故アルトキハ此 所ニ記入スルヲ妨 グナシ	

何町何丁目
營業者小敷ノ下キハ附帶地ヲ入
名ノ下ニ記入スルヲ妨グナシ

明治何年度隨時收入原簿

第十三號

何區役所

計 合						
前 半 期 金 何 程	後 半 期 金 何 程	合 金 何 程				
月 十	月 四	金何程○				
月 十一	月 五	金何程○				
月 二十	月 六					
月 一	月 七					
月 三	月 八					
月 三	月 九					
合 計	合 計	合 計				

第十四號

明治何年度何稅原簿

何區役所

計合

金何程〇									
金何程〇									
何									
人〇									

第十五號

明治何年度
戸家數屋割稅原簿

何區役所

計合

何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅	何問 以上何 割稅
金何程○									
金何程○									

第十六號

明治何年度雜收入原簿

何區役所

會計

期後	期前	期後	期前	期後	期前	期後	期前	期後	期前
何	何								
程	程								
金 何 程 〇									
金 何 程 〇									
何									
八									

冊 合

余 何 種 ○								
何 人								

物
品
出
納
帳
簿
式

(用紙ハ美濃紙トス
帳簿式ハ總テ朱線ノリ)

消耗品交付簿

四十二

年月日	品目	數量	摘要	領收人掛職姓名
明治四十年	紙 罝紙	何々	用	何掛職名 何之 誰印

第十七類

給 與

○俸給支給規則 明治二十七年十月 市告示第五十號

本市會ノ議決ヲ經俸給支給規則左ノ通之ヲ定ム

俸給支給規則

第一條 俸給及雜給ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一年俸ハ之ヲ十二分ニ毎月支給ス

二年俸及月給ハ毎月二十六日ヲ以テ支給シ休日ニ當ル

トキハ繰上ルモノトス

三日給ハ前月二十六日ヨリ其月二十五日迄(三月ハ三

日迄)計算シ末日ヲ以テ支給シ休日ニ當ルトキハ繰上ルモ

ノトス

四定雇ノ日給ハ日曜其他ノ休日ヲ算入ス

第二條 本市吏員ニシテ俸給ヲ受クル者(備具其他雜給ヲ

○俸給支給規則

吏員ヲ在職中死亡シタルトキハ年俸ノモノハ四分ノ一月給ノモノハ三箇月分其他市ノ職務ニ從事シ勤績滿二年以上ニシテ月給八圓以上ノモノハ月給二箇月分ヲ其遺族死亡ノ當時同居ノ者ニ支給ス

第三條 新任ノトキハ就職ノ日ヨリ轉任ノトキハ前任職ニ於テハ事務引繼ヲ畢リタル日迄後任應ニ於テハ就職ノ日ヨリ日割ヲ以テ支給ス但増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算ス

第四條 廢職退職死亡ノ時ハ當月分ノ全額ヲ實際支給ス但不都合ノ所爲アリテ免職シタルモノハ日割ヲ以テ支給ス

第五條 廢職若クハ退職ノトキ特ニ事務調理ノ命ヲ承ケ翌月以降ニ涉リ執務スルモノハ其間尙従前ノ給額ヲ支給ス但最後ノ月ハ調理終了ノ日迄日割ヲ以テ實際支給

第六條 願濟旅行又ハ私事ノ故障ニヨリ服務セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ給額ノ半ヲ減ス

第七條 病氣ノ爲メ服務セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ給額ノ半ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限リニアラス

第八條 賜暇又ハ忌引ハ給額ヲ減セス

第九條 第六條ノ場合ト第七條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第六條ニ始リ第七條ニ終レハ其間ヲ通算シ九十日ノ後給額ヲ減シ第七條ニ始リ第六條ニ終レハ其間ヲ通算シ三十日ノ後給額ヲ減ス

第十條 賜暇又ハ忌引ト第六條第七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シテ減給ス

○俸給支給規則

第十七類 給與

○區長及書記ノ給料額ヲ定ムル件

四百五十二

第十一條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

第十二條 計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

○區長及書記ノ給料額ヲ定ムル件 明治二十二年七月市制第七十六條第四項ニ依リ區長及書記ノ給料額ヲ定ムルコト左ノ如シ

區長

- | | | | |
|----|-------|----|-------|
| 一級 | 年俸千圓 | 二級 | 年俸九百圓 |
| 三級 | 年俸八百圓 | 四級 | 年俸七百圓 |
| 五級 | 年俸六百圓 | | |

書記

- | | | | |
|----|-------|----|--------|
| 一級 | 月俸四拾圓 | 二級 | 月俸參拾五圓 |
| 三級 | 月俸參拾圓 | 四級 | 月俸貳拾五圓 |
| 五級 | 月俸貳拾圓 | 六級 | 月俸拾五圓 |

第十七類 給與

○區長及書記增俸規則○旅費支給規則

四百五十三

- | | | | |
|----|-------|----|------|
| 七級 | 月俸拾貳圓 | 八級 | 月俸拾圓 |
| 九級 | 月俸八圓 | | |

○區長及書記增俸規則 明治二十二年七月市告示第十五號
本市會ノ議決ヲ經區長書記增俸規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

區長書記增俸規則

第一條 區長ハ每級在職二年ヲ踰ユルニアラサレハ增俸スルヲ得ス

第二條 書記ハ八級以下每級在職二年七級以上二級以下每級在職三年ヲ踰ユルニアラサレハ增俸スルヲ得ス

第三條 書記ハ每級ノ定員ニ缺員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルモ增俸スルヲ得ス

○旅費支給規則 明治二十五年四月市告示第十五號
本市會ノ議決ヲ經市費ノ支辨ニ係ル旅費支給規則左ノ通

○旅費支給規則

改正ス

- 第一條 名譽職參事會員委員其他市吏員等公務ニ依リ旅行スルトキハ一切ノ費用ニ充ル爲メ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ヲ分テ五等トシ左表定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ據リ汽車賃汽船賃車馬賃及日當ヲ支給ス
- 第三條 汽車賃ハ汽車旅行汽船賃ハ汽船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ル爲メ之ヲ支給ス
- 第四條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ
- 第五條 日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス
但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

○旅費支給規則

		第六條 汽車賃汽船賃及車馬賃ハ種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給シ其一位未滿ノ各端數ハ計算セサルモノトス	
		第七條 測量及工事等ノ爲メ現場巡視ノ旅費ハ車馬賃ヲ給セス日當額二三割増ヲ支給ス	
		第八條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ係ハラス汽車汽船ノ到達地ニ若シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ	
		第九條 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ	
等	級	級	級
一等	名譽職參事會員委員及水道工事長	六	七
		錢	錢
		拾八	貳
		圓	圓

○市吏員退職料條例

四百五十六

二等	俸給月額五拾圓以上ノ職員	五	六	拾五錢	壹圓參拾錢
三等	俸給月額貳拾圓以上ノ職員	四	五	拾	七拾錢
四等	俸給月額貳拾圓未滿ノ職員	參	四	八	四拾錢
五等	番人給仕小使職工ノ類			參錢五厘	貳拾五錢
				陸拾雜費一厘每二	

○市吏員退職料條例 明治二十八年八月市條例第二號

市制第七十七條ニ依リ市吏員退職料條例ヲ設ケ第百二十一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケ左ノ通り之ヲ定ム

市吏員退職料條例

第一條 本市吏員ニシテ俸給ヲ受クル者退職シタルトキハ本條例ノ規定スル所ニ依リ退職料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但僱員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員ハ之ヲ除ク

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當

ルトキハ終身退職料ヲ給ス

一年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ許シタルトキ

二傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ許シタルトキ

三廢職又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 職務ニ因リ傷痕ヲ受ケ又ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ許シタルトキハ前條ノ年限ニ滿サルモ終身退職料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退職料ヲ給ス

第四條 退職料年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在職十五年以上十六年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以

○市吏員退職料條例

四百五十七

後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退職料ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ退職料ハ十五年ノ額トス退職料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ充テシム

第五條 在職年數ハ就任ノ月ヲ以テ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス但明治二十二年七月以前ニ就任シタル者ハ同年同月ヨリ起算ス

第六條 左ニ掲クル月數ハ在職年數中ヨリ除算ス
 一年齡二十歲未滿者ノ月數
 二 備員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員勤務ノ月數
 三 自己ノ便宜ニ依リ退職シ又ハ不都合ノ所爲アリテ免職シ及官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シ之カ爲メ退職シタル後再ヒ就職シタル者ニ在テハ其前職ノ月數

第十七類 給與

○市吏員退職料條例

四百五十九

第七條 退職料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ又ハ在職中ノ犯罪退職後ニ發覺シ刑法ニ依リ官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シタルトキハ直ニ退職料ノ支給ヲ止ム

第八條 退職料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間退職料ノ支給ヲ停止ス

第九條 年齡未ダ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ不都合ノ所爲アルニ依リ免職シタル者及官吏失職ニ當ルヘキ刑事裁判確定シ之カ爲メ退職シタル者ハ退職料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

第十條 退職料ヲ受クル者再ヒ職ニ就キ滿一年以上在職シタル後退職シタルトキハ左ノ區別ニ依リ退職料ヲ給ス

一 退職現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前職年數

○市吏員退隱料條例

ヲ後職ノ年數ニ通算シ後職ニ對スル退隱料額ト前職ノ退隱料額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二退職現時ノ俸給前後相同シキトキハ在職年數ニ依リ退隱料ヲ増加ス但前職十五年未滿ニシテ退隱料ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セズ

第十一條 備員其他雜給ヲ以テ支辨スル吏員ニシテ第三條ニ該當スル者ハ退職現時ノ給料月額四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十二條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十三條 退隱料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十四條 退隱料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス

○市吏員退隱料條例施行規則

第十五條 在職滿一年以上十五年未滿ノ者第二條ニ掲ケル事項ニ當リタルトキハ一時金ヲ給與ス但一時金ヲ受ケタル者再ヒ就職シタルトキハ其在職年數ハ再就職ノ月ヨリ起算ス

一時金ハ退職現時ノ俸給半箇月分ヲ在職年數ニ乘シタル額トス

退隱料ヲ受クル者ハ本條ノ一時金ヲ支給セズ

○市吏員退隱料條例施行規則 明治二十八年八月 市告示第三十八號

本市會ノ議決ヲ經テ市吏員退隱料條例施行規則左ノ通之ヲ定ム

市吏員退隱料條例施行規則

第一條 市吏員退隱料條例第二條第三條及第十一條ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ當廳ニ差出スヘシ

○市吏員退隱料條例施行規則

四百六十二

- 第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 在職中ノ履歷書
 - 二 市町村長(東京市京都市大坂市ハ區長)ノ證明シタル戶籍調書
- 第三條 市吏員退隱料條例第三條第十一條ニ依リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ
 - 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
 - 二 醫師ノ診斷書
- 第四條 市吏員退隱料條例第十五條ニ依リ一時金ヲ受クヘキ者ハ一時金請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添付シ當應ニ差出スヘシ
- 第五條 退隱料及一時金ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料證書又ハ一時金辭令書ヲ交付ス
- 第六條 退隱料ハ其年額ヲ二分シ四月十月ニ其前六箇月

○市吏員退隱料條例施行規則

四百六十三

- 分ヲ支給ス但權利消滅若クハ支給停止ノトキハ本條ノ期限ニ拘ラス之ヲ支給ス
- 一時金ハ辭令書交付ノ際之ヲ支給ス
- 第七條 退隱料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書及ヒ現住市町村長(東京市京都市大坂市ハ區長)ノ生存證明書ヲ以テ受領權アルコトヲ證明スヘシ
- 第八條 退隱料ヲ受クル者本市以外ニ轉住シ其地ニ於テ退隱料ヲ受領セントスルトキハ其地市町村長(京都市ハ區長)ノ承認ヲ得支給期月三十日前ニ願出テ許可ヲ受ヘシ前項ノ場合ニ於テハ其市町村役場(京都市ハ區役所)ニ委託シテ之ヲ支給ス
- 第九條 市制第七十九條及市吏員退隱料條例第七條及第八條ニ當リタル者ノ退隱料支給ノ終始ハ左ノ如シ
 - 一 官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料

ヲ受クルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退職シタルトキハ給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

二重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ在職中ノ犯罪退職後ニ發覺シ官吏失職ニ當ルヘキ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民ノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

三公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但厘位未滿ノ端數ハ四捨五入ス

第十條 市吏員退職料條例第三條ニ掲クル最下金額十分

ノ七マテノ増加退職料ノ等差ハ左ノ如シ但一人ニテ二項以上ニ該當スルトキハ其重キニ依リ支給ス

第一項 兩眼ヲ盲シ又ハ二肢以上ヲ亡ヒ若クハ之ト同等ナル傷痍疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ又ハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ト同等ナル傷痍疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ又ハ一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ト同等ナル傷痍疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公
共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其官職名及給
料ノ支給ヲ開始セラレタル日又解職セラレタルトキハ
解職ノ月日及給料ノ支給ヲ停止セラレタル日ヲ當應ニ
届出ヘシ

第十二條 退隱料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シタ
ルトキハ其遺族又ハ本人ヨリ當應ニ届出退隱料證書ヲ
返納スヘシ

第十三條 退隱料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又
ハ監視ニ付セラレルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタルトキ
ハ其家族若クハ親族ヨリ裁判宣告書ノ寫ヲ添へ當應ニ
届出ヘシ

第十四條 水火災盜難等ニ由リ退隱料證書ヲ亡失シタル

者ハ其事由ヲ具シ當應ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ受クルトキハ其事實ヲ調査シ退隱料證書
ノ謄本ヲ作り之ヲ交付ス

退隱料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス
第十五條 退隱料ヲ受クル者ハ自己ノ印影ニ市町村長(東京
市京都市大坂市ハ區長)ノ證明ヲ受ケ當應ニ届出ヘシ但爾後變更シ
タルトキハ其都度本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 退隱料ヲ受クル者轉籍又ハ改氏名ヲ爲シタル
トキハ市町村長(東京市京都市大坂市ハ區長)ノ證明ヲ受ケ當應ニ届出
ヘシ其改氏名ノ届書ニハ退隱料證書ヲ添付シ證書ノ裏
面ニ其事實ノ證記ヲ受クヘシ

○市吏員傷疾疾病等差例明治二十八年八月
市告示第三十九號
本市會ノ議決ヲ經テ市吏員傷疾疾病等差例左ノ通之ヲ定

第十七類 給與

○市吏員傷疾疾病等差例

四百六十八

市吏員傷疾疾病等差例

- 第一條 市吏員退隱料條例施行規則第十條ノ各項ニ該當スヘキ傷疾疾病ノ等差ハ左ノ規定ニ從フ
- 第二條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四項トス
- 第三條 兩耳ノ官能ヲ廢スル者ハ第四項トス
- 第四條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第二項若シハ第三項トス
- 第五條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼昏昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨シ得ル者ハ第二項トス
- 第六條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第一項若シハ第二項トス
- 第七條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ輕重ヲ酌量シテ第二項若シハ第三項トシ幾分ノ障礙ヲ遺ス者ハ第五項其輕キ者

第十七類 給與

○市吏員傷疾疾病等差例

四百六十九

- ハ第六項トス
- 第八條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス
- 第九條 癡呆若シハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第三項若シハ第五項トス
- 第十條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若シハ第六項トス
- 第十一條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ニ障礙ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若シハ第六項トス
- 第十二條 胃腸膀胱等ニ逆管ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第二項若シハ第三項トス
- 第十三條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若シハ第六項トス

○市吏員傷疾疾病等差例

- 第十四條 陰莖或ハ墨丸ヲ全失スル者ハ第三項トス
- 第十五條 陰莖ヲ半失スル者偏辜丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス
- 第十六條 頸項背腰諸筋ノ作用ニ障碍ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス
- 第十七條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ作用ヲ全廢スル者ハ第一項トス
- 第十八條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第十九條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ作用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項トス
- 第二十條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握探摘ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス

- 第二十一條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十三條 一下肢ヲ失スル者股關節ヨリ踝關節ニ至ル間其部位ニ依リ輕重ヲ酌量シテ第二項若クハ第三項トス
- 第二十四條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ニ障碍ヲ遺ス者ハ輕重ヲ酌量シテ第五項若クハ第六項トス
- 第二十五條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十六條 一足ニ於テ五趾ヲ失スル者ハ第五項トス第一趾ヲ併セ三趾ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十七條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ輕重ヲ

○市吏員傷疾疾病等差例

第十七類 給與

○市吏員以下夜勤賄支給ノ件

四百七十二

酌量シテ第一項若クハ第二項トス

第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス

第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス

第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス

第三十一條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

○市吏員以下夜勤賄支給ノ件 明治二十六年三月 市訓令第六十九號

區 役 所

市吏員以下臨時夜勤賄ハ代料又ハ現品ヲ以テ左ノ各項ニ依リ支給スヘシ

一 退廳時限ヨリ引續キ午後八時過キ迄勤務セシモノ

第十七類 給與

○市吏員以下夜勤賄支給ノ件

四百七十三

一同 上午後十二時過キ迄勤務セシモノ

一同 上徹夜勤務セシモノ

一 賄
二 賄
三 賄

第十八類

水道改良

○東京市水道設計 明治廿三年七月
東京市告示第五十號
(二十四年十二月東京市告示第
四十七號ヲ以テ改正追加ス)
 東京市區改正事業ノ内水道ノ設計左ノ通定メラル
 右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

東京市水道設計

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト做シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス
 淨水工場ヲ南豊島郡淀橋町ニ置キ從來ノ水渠ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水质ヲ清淨ニス但淀橋町淨水工場ヨリ以西二千餘間ハ新タニ水渠ヲ開鑿ス
 沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ル、

爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ増設スルモノトス但沈澱法ハ沈澱池ノ一端ニ於テ池底ヨリ水ヲ引キ入ル、ト同時ニ其他端ニ於テ水面ニ接シタル處ヨリ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ濁濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ每二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二個ヲ設ケ内二個ヲ豫備ニ充ツ尙他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ増設スルモノトス

海面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨水工場内ニ唧筒機及ヒ淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ本郷芝近傍ノ二個所ニ分送シ此ニ淨水池及ヒ唧筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス

淨水貯池ハ人口百五十萬ニ對スル十二時間分ノ水量ヲ容ル、モノトシ各給水工場ニ二箇宛ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

唧筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其内一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ定度トス

高地區域ニ於テハ淀橋町給水工場ヨリ唧筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷赤阪麻布ノ全區及ヒ芝翹町牛込小石川本郷神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於ケル濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ麻布ノ淨水貯池ニ一ハ小石川近傍ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ送水シ此貯池ヨリ唧筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋京橋下谷淺草本所深川ノ全區及ヒ芝翹町牛込小石川本郷神田區ノ一部ニ配水

○水道改良工事及材料入札請負規則

四百七十八

ス此區域ニ於ケル本管ハ直徑四十二吋乃至十二吋トス
 本管ノ延長ハ凡ソ合計五十九哩四八支管ハ内徑四吋以上
 十二吋以下ニシテ其延長ハ凡ソ合計三百五十哩トス
 給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區番ニ之ヲ設ケ水
 ノ漏泄及ヒ其消費量ヲ量ルノ装置ヲナスモノトス但引用
 者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ
 消火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニ
 シテ合計四千四百五十個其他消火兼共用栓七十箇公園及
 ヒ街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設ケルモノトス
 以上ノ沈燈池澱水池淨水池等ノ位置廣狹消火栓共用栓ノ
 數及ヒ本支管ノ位置大小哩數等ハ實際工事ノ情況ニ依リ
 多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

○水道改良工事及材料入札請負規則 明治二十六年十月
 東京市告示第
 六十
 六號

水道改良工事及材料入札請負規則市會ノ議決ヲ經テ左ノ
 通之ヲ定ム

水道改良工事及材料入札請負規則

- 第一條 工事及材料請負入札人ハ不動産ヲ有シ二箇年以
 來所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但工事ニ就テハ本文制限ノ
 外尙二箇年以來土木事業ニ從事セシ者タルヲ要ス
- 第二條 請負金ハ工事ノ大小若クハ材料ノ多少ニ依リ二
 十回以下ニ區分シ其出來形若クハ納付高ニ應シ下渡ス
 コトアルヘシ
- 第三條 認可ヲ經スシテ着手又ハ竣功若クハ皆納ノ期日
 ヲ遷延スルトキハ違約ニ係ル損害賠償金トシテ一日ニ
 付工事ニ就テハ請負金高百分ノ一材料供給ニ就テハ不
 納物品ニ對スル請負金高百分ノ二ノ割合ヲ以テ遷延シ
 タル日數ニ乘シ算出セル金額ヲ納メシムヘシ

○水道改良工事及材料入札請負規則

四百七十九

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

第四條 請負人工事經營若クハ材料納付方ニ付不正ノ所
 爲アルカ又ハ手配不整頓ニシテ到底期限内ニ竣工若ク
 ハ完納シ能ハスト認ルルトキハ身元保證物ヲ沒收シ請
 負ヲ解シコトアルヘシ

第五條 明治二十二年七月東京市告示第十六號及ヒ明治二
 十六年九月東京市告示第六十號工事請負入札規則ハ前各
 條ニ抵觸セサルモノニ限り總テ之ヲ準用ス

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件明治二十五年五月
水改第廿二號市會議決
 本市水道用鑄鐵管ハ別冊購買示方書ニ依リ甲號外國購
買ノ契約ヲ爲スモノトス

第一章 總 則
甲 日本帝國東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一條 東京市參事會ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ購
 買スルニ付請負ヲ望ムモノハ本示方書ニ據リ納付ノ積

ヲ以テ代價積書ヲ差出スヘシ

第二條 市參事會ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂
 ケ積書價額ノ高低ニ拘ハラズ本市ニ最モ利益アリト認
 ムル製造人ニ請負ヲ命スルモノトス但市參事會ノ都合
 ニヨリ請負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條 請負ヲ命セラレタル請負人ハ第五條ノ代理人ト
 連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第四條 請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十二
 對スル公債證書外國公債又ハ市參事會ノ指定スル銀行
 或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預リ金證書ヲ差出スヘシ
 第五條 請負人ハ東京或ハ横濱ニ於テ市參事會カ相當ト
 認ムル代理人ヲ置キ市參事會ニ對スル請負人ノ總テノ
 責任ヲ負ハシムヘシ

第六條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買方書ノ件

或ハ其一部ヲ下請負セシメ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス
 第七條 請負人市參事會ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ
 遅延シタルトキハ市參事會ハ違約損害ノ賠償トシテ遲
 延日數每一日ニ付其遅延シタル物品代價ノ千分ノ五宛
 ヲ徵收ス

第八條 請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フ
 トキハ市參事會ハ第四條ノ保證金ヲ沒收ス

第九條 請負人示方書ノ條項ニ背戾シ到底請負ヲ完結ス
 ルコト能ハスト認ムルトキハ市參事會ハ請負契約ヲ解
 キ第四條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ但此場合ニ
 於テ市參事會カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セ
 シム

第十條 本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面ノ
 解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章 鑄鐵管數量及代價

第十一條 購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬ス
 ル材量表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス但實際ノ需用量ハ
 多少増減アルヘシ

第十二條 鑄鐵管ハ別紙畧圖ニ示ス如キ形狀ノ挿口及承
 口ヲ有スヘキモノトス

第十三條 各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ東京
 市佃島埋地ニ運送陸揚受授ノ後ニ市參事會カ仕拂フヘ
 キ重量毎壹噸ノ代價請負人本國ノ通トス

第十四條 異形管即チ彎管丁字管突緣管等ニ對スル重量
 每壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ但其數量ハ大約鑄鐵管全
 量ニ對シ普通水道工事ニ要スル割合トス

第三章 鐵質及鑄造法

第十五條 市參事會ハ製造人ニ各特有ノ製造法ヲ用ユル

○本市水道用鐵管購買方書ノ件

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

- ノ便宜ヲ得セシメンカ爲メニ特ニ左ノ諸項ヲ一定セス
故ニ代價積書ニ附シテ各項トモ詳細ノ調書ヲ差出スヘ
シ
- 一 用鐵ノ抗張強抗橫斷強及撓度
 - 二 印籠繼管ノ承口及挿口ノ寸法但第十二條ニ掲ケル
形狀ヲ有スルモノ
 - 三 各鐵管ノ有効長
 - 四 各鐵管ノ厚
 - 五 各鐵管壹本ノ豫定重量
- 第十六條 用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全体全質
ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質強
靱ニシテ容易ニ鑄ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ
- 第十七條 鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐毎ニ追
テ指定スヘキ數ノ試験片ヲ鑄造シ左ノ試験ノ用ニ供ス

- 一 抗張強試驗
 - 二 抗橫斷強及撓度試驗
 - 三 分析試驗
- 第十八條 鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑長挿口及承口ノ形狀ヲ
有シ斷面ハ眞圓ニシテ内外面トモ同心圓タルヘシ
- 第十九條 總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製壓
立模型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルニト
テ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤
ヲ以テ之ヲ切斷スルモノトス
- 第二十條 鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサラ
シメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシムヘ
シ
- 第二十一條 鑄鐵管ハ砂竅氣泡罅裂其他鑄造上ノ欠點ナ
ク内外面トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其他ノ

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

モノヲ以テ欠點ヲ補填スヘカラス

第二十二條 各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ名稱、東京市水道ナル文字、年號、及番號ヲ少クトモ一分ノ高サニ鑄出スヘシ

第二十三條 鑄鐵管ハ其全躰ヲ研磨シテ表面ニ附着シタル土砂塵埃等ヲ除去シ、第二十五條ノ検査ヲ經タル後之ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ煖メ主任技師ノ認可スル同熱度ノ防銹液中ニ浸シ、適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥セシムヘシ、但、其被包面ハ黑色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ附着シテ容易ニ剝脱シ能ハサルモノタルヘシ

鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ催腐劑ヲ使用スルコトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗リテ之ヲ保存スヘシ

第四章 検査

第二十四條 市參事會ハ製造中終始一人若クハ數人ノ代理者ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑査シ、鑄質ノ良否強弱其他各種ノ試験ヲ監督セシムヘシ

前項ノ試験ハ總テ市參事會ノ代理者カ適當ト認ムル所ノ方法ニヨリ代理者ノ指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十五條 鑄鐵管ハ内外ノ兩面ヲ検査シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且ツ鈍ヲ以テ之ヲ打テ鑄造上欠點ノ有無ヲ検査スヘシ

第二十六條 總テ鑄鐵管ハ十五氣壓ノ水壓試験ヲ爲シ試験中ハ絶ヘス重量大約六百目ノ鐵籠ヲ以テ管ノ各部ヲ打撃ス但自然流下用ノ管ハ十氣壓ヲ以テ試験ス

第二十七條 前條ノ試験ヲ了シタル各管ハ白ペンキヲ以

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十八條 左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ擯却ス

一 管ノ重量規定ヨリ百分ノ以上過少ナルモノ

二 管ノ厚サ同一ナラス其薄部規定ヨリ 以上薄キモノ

三 管ノ内徑規定ヨリ 以上過少ナルモノ

四 管ノ承口ノ内徑 以上過少ナルモノ若クハ

以上過大ナルモノ

五 管ノ挿口ノ外徑 以上過大ナルモノ若クハ

以上過少ナルモノ

六 塗料ノ剝脱シタルモノ及銹蝕ヲ生シタルモノ

七 其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十九條 試験ヲ爲スニ足ラスト認メタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ擯却ス

第三十條 東京市佃島埋地へ鑄鐵管到着ノ後更ニ市參事

會ノ費用ヲ以テ試験ヲ施行ス此場合ニ於テ第二十八條

ニ規定セル諸項ニ該當スト認メタル鐵管ハ市參事會代

理人ノ承認ヲ經タルモノト雖モ之ヲ擯却ス

第三十一條 擯却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以

テ直ニ之ヲ破壊スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文字

ヲ削除シ且同番號ノ鐵管ヲ製造スヘカラサルモノトス

第五章 受授及仕拂

第三十二條 鑄鐵管ノ納付ハ市參事會ノ指定スル仕譯書

ニ從ヒ請負契約濟ノ日ヨリ起算シ百二十日以内ニ之ヲ

始メ爾後毎二ヶ月ニ全請負額ノ十分ノ一以上ヲ納付シ

滿二ヶ年以内ニ請負全額ヲ納付スヘシ

第三十三條 請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類内徑番號及

重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各二通宛ヲ差出スヘシ

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

第十八類 水道改良

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

四百九十一

第三十四條 諸鐵管代價ハ東京市佃島埋地ニ於テ受授ノ際秤量シタル重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂フヘシ

一 各鐵管ノ重量規定ヨリ百分ノ 以內ノ過不足アルトキハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ

二 各鐵管重量ノ過百分 一 超過スルトキハ其超過重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲サルヘシ

三 前二項ノ規定ニヨリテ時々鐵管代價ノ仕拂ヲ爲スヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價支拂ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハサルヘシ

第三十五條 受授以前ニ破碎シタル管ハ撥却スルコト勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキハ用途アル分ニ限り之ヲ購買スルコトアルヘシ

第十八類 水道改良

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

四百九十一

第三十六條 撥却セラレタル鑄造品ハ其撥却ノ理由何タルヲ問ハス請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ引取ルヘキモノトス

第三十七條 鑄鐵管ハ東京市佃島埋地ニ於テ主任技師カ検査及試験ヲ爲シタル後市參事會ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス

第三十八條 代價仕拂ハ物品受授濟ノ後十五日以內ニ物品目錄ニ照シテ代價ヲ計算シ當日ノ金貨相場ニ據リ日本通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

乙 東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一章 總 則

第一條 東京市參事會ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ購買スルニ付請負ヲ望ム者ハ本示方書ニ據リ製造納付ノ積ヲ以テ製造ニ要スル諸設備ノ計畫及圖面相添代價積

○本市水道川鐵管購買方書ノ件

書ヲ差出スヘシ

第二條 市參事會ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケ積書價額ノ高低ニ拘ハラズ本市ニ最モ利益アリト認ムレ製造人ニ請負ヲ命スルモノトス但市參事會ノ都合ニヨリ受負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條 請負人ハ冶金學士及機械學士各一名以上ヲ製造ニ從事セシムルヲ要ス

第四條 請負ヲ命セラレタル請負人ハ保證人連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第五條 請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十二對スル公債證書又ハ市參事會ノ指定スル銀行或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預リ金證書ヲ差出スヘシ

第六條 請負人ハ請負契約後 ヶ月以内ニ鐵管鑄造ニ着手スヘシ

○本市水道川鐵管購買方書ノ件

第七條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部

或ハ其一部ヲ下請負セシメ又ハ之ヲ讓渡コトヲ得ス

第八條 請負人ハ市參事會ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ遅延シタルトキハ市參事會ハ違約損害ノ賠償トシテ遅延日數毎一日ニ付其遅延シタル物品代價ノ千分ノ五宛ヲ徵收ス

第九條 請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フトキハ市參事會ハ第五條ノ保證金ヲ沒收ス

第十條 請負人示方書ノ條項ニ背戻シ到底請負ヲ完結スルコト能ハスト認ムルトキハ市參事會ハ請負契約ヲ解キ第五條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ但此場合ニ於テ市參事會カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セシム

第十一條 本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

ノ解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章 鑄鐵管數量及代價

第十二條 購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬スル材料表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス但實際ノ需用量ハ多少増減アルヘシ

第十三條 各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ本市内ニ於テ時々指定スヘキ河岸物揚場ニ運送陸揚受授ノ後ニ市參事會カ仕拂フヘキ重量每壹噸(一千キログラム)ノ代價トス

第十四條 異形管即チ彎管丁字管突緣管等ニ對スル重量每壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ但其數量ハ大約鑄鐵管全量ニ對シ普通水道工事ニ要スル割合トス

第三章 鐵質及鑄造法

第十五條 用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全躰同質ニシテ燼滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質強靱ニシテ容易ニ鑄ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第十六條 鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐毎ニ追テ指定スヘキ數ノ試驗片ヲ鑄造シ左ノ試驗用ニ供スヘシ

一 抗張強試驗

壹平方ミリメートルニ付拾四キログラム以上ノ強度ヲ要ス

二 抗橫斷強試驗

長六百五拾ミリメートル幅貳拾五ミリメートル高五拾ミリメートルノ試驗片ヲ六百ミリメートルノ距離ニ於ル二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シテ其重量九百七拾キログラム以上ニ耐ヘ且中央ニ於

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

テ六ミリメートル以上ノ撓度ヲ示スヘキモノトス
三分拆試験

第十七條 鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑、長、厚、挿口、及承口ノ形狀
ヲ有シ斷面ハ直圓ニシテ内外而トモ同心圓タルヘシ

第十八條 總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製堅
立模型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルコト
ヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤
ヲ以テ之ヲ切斷スルモノトス

第十九條 鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサラ
シメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシムヘ
シ

第二十條 鑄鐵管ハ砂竅、氣泡、罅裂其他鑄造上ノ欠點ナク
内外而トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其他ノモ
ノヲ以テ欠點ヲ補填スヘカラス

第二十一條 各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ名
稱、東京市水道ナル文字、年號、及番號ヲ少クトモ一分ノ高
サニ鑄出スヘシ

第二十二條 鑄鐵管ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附着シタ
ル土砂塵埃等ヲ除去シ第二十四條ノ検査ヲ經タル後之
ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ煖メ主任技師ノ認可スル同熱
度ノ防銹液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥
セシムヘシ但其被包面ハ黑色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ
附着シテ容易ニ脱剝シ能ハサルモノトス
鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ能腐劑ヲ使用スル
コトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサ
ルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗りテ之
ヲ保存スヘシ

第四章 検査

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

第二十三條 市參事會ハ製造中終始主任技師若クハ其代理人ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑査シ鐵質ノ良否強弱其他各種ノ試験ヲ監督セシムヘシ

前項ノ試験ハ總テ主任技師カ適當ト認ムル所ノ方法ニヨリ其指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十四條 鑄鐵管ハ内外ノ兩面ヲ検査シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且銼ヲ以テ之ヲ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ検査スヘシ

第二十五條 總テ鑄鐵管ハ拾五氣壓ノ水壓試験ヲ爲シ試驗中ハ絶ヘス重量大約一百目ノ鐵銼ヲ以テ管ノ各部ヲ打撃ス但自然流下用ノ管ハ拾氣壓ヲ以テ試験ス

第二十六條 前條ノ試験ヲ了シタル各管ハ白ペンキヲ以テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十七條 左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ撥却ス

一管ノ重量規定ヨリ百分ノ 以上過少ナルモノ

二管ノ厚サ同一ナラス其薄部規定ヨリ 以上薄キモノ

三管ノ内徑規定ヨリ 以上過少ナルモノ

四管ノ承口ノ内徑 以上過少ナルモノ若クハ

以上過大ナルモノ

五管ノ挿口ノ外徑 以上過大ナルモノ若クハ

以上過少ナルモノ

六塗料ノ剝脱シタルモノ及銹蝕ヲ生シタルモノ

七其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十八條 試験ヲ爲スニ足ラスト認メタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ撥却ス

第二十九條 前數條ニ規定セル試験及検査ノ際主任技師

○本市水道用鐵管購買示方書ノ件

○本市水道用鐵管購買方書ノ件

或ハ其代理人カ按却セサリシ諸鐵管ト雖モ最後ノ受授以前ニ不合格品タルコトヲ發見スルコトアレハ市參事會ハ尙ホ之ヲ按却ス

第三十條 按却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ破壊スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文字ヲ削除シ且同番號ノ鐵管ヲ製造スヘカラサルモノトス

第五章 受授及仕拂

第三十一條 鑄鐵管納付期限ハ製造着手ノ日ヨリ起算シ毎二ヶ月ニ貳千噸以上ヲ納付スヘシ

第三十二條 請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類内徑番號及重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各貳通宛ヲ差出スヘシ
第三十三條 諸鐵管代價ハ其重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂フヘシ

一各鐵管ノ重量規定ヨリ百分ノ 以內ノ過不足ア

ルトキハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ
二各鐵管重量ノ過百分 ヲ超過スルトキハ其超過重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲サ、ルヘシ
三前二項ノ規定ニヨリテ時々鐵管代價ノ仕拂ヲ爲スヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價仕拂ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハサルヘシ
第三十四條 受授以前ニ破碎シタル管ハ按却スルコト勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキハ用途アル分ニ限り之ヲ購買スルコトアルヘシ
第三十五條 鑄鐵管ハ市參事會ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス
第三十六條 代價仕拂ハ物品受授済ノ價格金五萬圓ニ達スル毎ニ之ヲ仕拂フヘシ

○本市水道用鐵管購買方書ノ件

第十八類 水道改良

○水道用具購買示方書ノ件○水道改良事業用物品購入ニ關スル件○水道改良事務所員旅費支給ノ件

五百二

○水道用具購買示方書ノ件 明治二十五年十一月
水道用具ノ内阻水弁、量水器、安全瓣、消火栓、共用栓、水留栓、唧筒機等ニシテ鑄鐵管購買手續ニ類セル購買契約ヲ爲スモノハ水道用鑄鐵管購買示方書ニ準ス

○水道改良事業用物品購入ニ關スル件 明治二十七年五月
議決 議決 市會 第一

一 水道改良事業ニ屬スル物品購入ハ左ノ拾種ニ限リ場合ニ依リ特ニ其專業者ヨリ積書ヲ徵シ豫算以内ニシテ相當ト認ムルトキハ請負ヲ命スルコトヲ得

- 一 練瓦
- 一 セメント
- 一 粘土
- 一 砂利
- 一 砂
- 一 石材
- 一 割栗石
- 一 生石灰
- 一 鉛
- 一 麻

○水道改良事務所員旅費支給ノ件 明治二十八年七月
議決 議決 市會 第三十八號 市會

本市水道改良事務所職員ノ公務ノ爲メ出張シ滞在一ヶ月

第十八類 水道改良

○水道鐵管敷設工事掛特別手當金支給ノ件

五百三

以上ニ及フ者アルトキハ其滞在中ハ旅費支給規則ニ據ラス左ノ月額又ハ日額ヲ旅費額トシ出張ノ月數若クハ日數ニ應シ之ヲ支給スルモノトス

俸給月額 五十圓以上ノ職員

一ヶ月 貳拾壹圓 一日七拾錢

同 貳拾圓以上ノ職員

同 拾五圓 同 五拾錢

同 貳拾圓未滿ノ職員

同 九圓 同 參拾錢

番人給仕小使職工ノ類

同 六圓 同 貳拾錢

○水道鐵管敷設工事掛特別手當金支給ノ件 明治二十
水改第百八十
四號市會議決

本市水道改良事務所職員中鐵管敷設工事ノ爲メ郡部ニ出

第十八類 水道改良

○水道鐵管敷設工事特別手当金支給ノ件

五百四

張スルモ自今旅費ヲ給セス各區鐵管敷設工事ニ従事スル者ハ市ノ内外ヲ問ハス特別手当トシテ三ヶ月毎ニ左ノ割合ニ依リ日當ヲ支給スルモノトス
但本文ノ手当金ハ雜給中諸手当ノ豫算内ヨリ支出シ若シ不足ヲ生シタル場合ニ於テハ豫備費ヨリ支出スルモノトス

手当金割合

技師	一日 金拾五錢以內
工手	一日 金拾錢以內
事務員	一日 金七錢以內
助手	
事務員	月給貳拾圓以上ノモノ
事務員	月給貳拾圓未滿ノモノ
備員	
工夫	

職 工

○水道改良事務所物品出納規程明治二十五年四月市參事會議決

- 第一條 此規定ニ於テ物品ト稱スルハ水道改良事務所ニ屬スル器具器械其他ノ備品及消耗品ヲ云フ
- 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
- 第三條 物品ハ現ニ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計主任トス
- 第五條 事務所及各工場ニハ物品取扱主任者ヲ定メ置キ需用品出納一切ノ責ニ任セシム
- 第六條 凡ソ貯藏ノ物品ハ物品會計主任其他共用ニ係ル物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管ス

第十八類 水道改良

○水道改良事務所物品出納規程

五百五

ヘシ

第七條 前條保管者ハ其故意怠惰ニ依リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 常時出納ヲナサル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ハ少ナクモ毎年一回若クハ物品會計主任交替ノ際検査ヲナシ物品會計主任及立會人ハ目錄ト現在品ト照合シ其調査ヲ作リ之ニ署名スヘシ

第九條 物品ノ交付ヲ請求スルトキハ請求用紙ニ品目數量及需用ノ事由ヲ詳記シ物品會計主任ニ請求スヘシ

第十條 前條物品ヲ交付スルトキハ物品取扱主任ノ證書ヲ徴スヘシ

第十一條 消耗品ノ内共用ニ属スル薪炭油ノ如キ日々支消スル物品ハ需用概算高ヲ以テ假渡ヲナスコトヲ得

第十二條 使用ノ物品不用ニ屬スルトキハ其返納書ヲ添

ヘ速ニ返納スヘシ

第十三條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備置クヘシ

備品出納簿

全内譯簿

消耗品出納簿

全内譯簿

以上帳簿ハ物品會計主任ニ属ス

備品現在簿

全内譯簿

消耗品受拂簿

以上帳簿ハ物品取扱主任ニ属ス

第十四條 物品會計主任ハ物品購入其他ノ事由ニ依リ現品ヲ接受シタルトキハ之ヲ證書類ニ照シ調査納入シ帳簿ニ登記スヘシ

第十五條 物品取扱主任ハ備品ヲ受入タルトキ備品現在簿ニ登記スルモノトス其返納シタルトキモ亦同シ

第十六條 前條受入タル備品ハ各自専用品ト共用品トヲ

第十八類 水道改良

○水道改良工事用材料出納規定

五百八

區分シ備品内譯簿ニ登記シ専用品ハ専用者該簿ニ捺印
スルモノトス其返納シタルトキモ亦同シ

第十七條 物品取扱主任ハ消耗品ヲ受入タルトキ消耗品
受拂簿受内受ノ區畫ニ登記シ各自ニ交付シタルトキハ
拂ノ區畫ニ登記スヘシ

○水道改良工事用材料出納規定 明治二十六年七月
市參事會議決

第一條 此規定ニ於テ材料ト稱スルハ水道改良工事用ニ
屬スル煉瓦、セメント、木石材、鐵管其他工事ニ使用スル諸
品ヲ云フ

第二條 材料ノ會計年度ハ物品出納規程第二條ニ同シ

第三條 材料ノ受入ハ第六條ノ検査ヲ了シ納付ノ確定シ
タル月其仕拂ハ之ヲ工事ニ使用シタル日ヲ以テ年度ノ
所屬ヲ區分スヘシ

第四條 材料ノ使用及其計算整理ノ爲材料主任ヲ置キ時

々各工場ニ就テ現品及帳簿ノ検査ヲ爲サシムル者トス

第五條 事務所及各工場ニ材料掛ヲ置キ諸材料受拂一切
ノ責ニ任セシム

第六條 材料納人ヨリ事務所及各工場ニ材料ヲ納付スル
トキハ材料掛及主任技師若クハ其指定ノ掛員立會検査
ノ上契約書命令書示方書ニ依リ授受スヘシ

第七條 材料納人ニ於テ悉皆納付ヲ了リタルトキハ納期
日數皆納期日ヲ記載シタル材料掛ノ證明書ニ納人ヨリ
差出シタル代價請求書領收證書精算内譯書ヲ添へ報告
スヘシ代價内渡ヲ要スルトキモ亦前項ニ準ス

第八條 材料納人ニ於テ契約書命令書示方書ニ違背シ或
ハ被免ヲ乞フコトアルトキハ其理由ヲ詳記シ之カ處分
ノ手續ヲナスヘシ

第九條 材料掛ハ現品ノ出納及其計算整理ノ爲メ左ノ帳

第十八類 水道改良

○水道改良工事用材料出納規定

五百九

第十八類 水道改良

○水道改良工事用材料出納規定

簿ヲ備置スヘシ

諸材料受拂原簿

諸材料現場受拂原簿

第十條 各工場現場主任ハ材料受拂ヲ詳明スルカ爲メ左ノ帳簿ヲ備置スヘシ

諸材料受拂簿

第十一條 各現場主任ニ於テ材料ノ交付ヲ請求スルトキハ請求書用紙ニ品名數量及需用ノ事由ヲ詳記シ請求書欄内ヘ主任捺印シテ材料掛ヘ請求スヘシ

第十二條 材料掛ハ前條材料ノ請求アリタルトキハ現品ヲ交付シ材料受拂原簿ニ登記シタル後其請求書ノ備考ニ材料ノ種類ヲ記入シテ之ヲ現場主任ニ回付スヘシ
第十三條 現場主任ハ前條請求書ノ回付ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ登記シ請求書欄内現品領收ノ區畫ニ捺印シテ

材料掛ヘ返付スヘシ

第十四條 材料掛ハ前條請求書ノ返付ヲ受ケタルトキハ現場受拂原簿ニ登記スヘシ

第十五條 現場主任ハ材料ヲ工事ニ使用シタル數量ヲ日々受拂簿ニ登記シ一週間毎ニ之ヲ合計シテ材料掛ヘ報告スヘシ

第十六條 材料掛ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ現場受拂原簿ニ登記スヘシ

第十七條 現場主任ハ工事竣工ノ後諸材料ノ計算ヲナシ殘品ハ返納書用紙ニ品名數量ヲ記入シ現品ト共ニ材料掛ヘ返納スヘシ

第十八條 材料掛ハ前條殘品ノ返納書ト共ニ現品ヲ受領シタルトキハ現場受拂原簿及材料受拂原簿ニ登記シテ帳簿仕拂ノ整理ヲナスヘシ

第十八類 水道改良

○水道改良工事用材料出納規定

○水道改良工事用材料出納規定

各帳簿ニ登記シタル後返納書用紙甲號ハ材料掛ニ止メ置キ乙號ハ材料掛捺印シテ現場主任ニ送付スヘシ

第十九條 現場主任ハ前條乙號返納書ヲ受ケタルトキハ諸材料受拂簿ニ返納ノ理由ヲ明記シ帳簿受拂ノ整理ヲナスヘシ

第二十條 現場主任ニ於テ材料ノ交付ヲ受ケタル後該材料ニ對シ毀損其他ノ事由アツテ使用シカタクキハ其理由ヲ詳記シ返納ノ手續ヲナスヘシ

第二十一條 現場主任ハ其工事ニ使用スヘキ材料ヲ他ノ現場主任ト互ニ現品交換スルコトヲ許サス

第二十二條 諸材料購買ニ係ル必要ノ書類ハ其寫ヲ各工場ニ備置クモノトス

第二十三條 此規定ニ據リ設クル處ノ諸帳簿及請求書返納書報告書ノ様式ハ別冊ニ定ム但別ニ補助簿ヲ設クル

ハ妨ケナシ

(別冊略ス)

○水道改良事務所事務分掌ノ件明治二十六年四月市訓令第二號

水道改良事務所

其事務所ニ庶務掛工務掛ヲ置キ分掌左ノ通相定ム

庶務掛

一 豫算下調及經費收支ニ關スル事項

一 物品購買ニ關スル事項

一 備品及消耗品ニ關スル事項

一 入札及契約ニ關スル事項

一 文書起案及編纂ニ關スル事項

一 所員身分取扱及勤怠ニ關スル事項

工務掛

一 工事設計及示方書調製ニ關スル事項

○水道改良事務所事務分掌ノ件

第十八類 水道改良

○水道改良事務所事務分掌ノ件

五百十四

- 一 測量及製圖ニ關スル事項
- 一 工費取調ニ關スル事項
- 一 工事監督ニ關スル事項
- 一 工事用物品取扱ニ關スル事項

○全 上明治二十七年三月
市訓令第五號

水道改良事務所

其事務所ニ給水掛ヲ置キ分掌左ノ通り相定ム

給水掛

- 一 現水道工事ニ關スル事項
- 一 水源水路監督ニ關スル事項
- 一 上水井分水水船水汲場及水車ニ關スル事項
- 一 水道準備金ニ關スル事項
- 一 水料徴收ニ關スル事項
- 一 現水道雜收入ニ關スル事項

第十八類 水道改良

○水道改良事務所給水掛員進退賞與ニ關スル申請ノ件
○水道改良工事用材置場番人服制ヲ定ムル件

五百十五

○水道改良事務所給水掛員進退賞與ニ關スル申請
ノ件 明治二十七年三月
市訓令第四號

水道改良事務所

其事務所給水掛以下ノ進退賞與ニ關スル申請ハ給水掛長
ヲシテ取扱ハシムヘシ

○水道改良工事用材置場番人服制ヲ定ムル件 明治
七年四月市
參事會議決

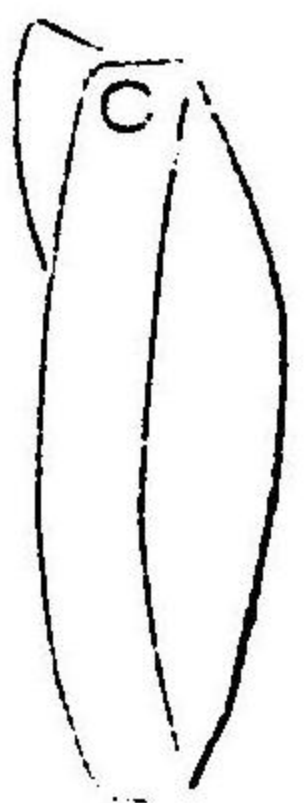
水道改良工事用材置場番人へハ是マテ被服宿直賄炭油其
他ノ消耗品ヲ給與シ來リタル處二十七年以降右現品給
與ヲ廢シ番人詰所諸費トシテ一ヶ月四圓ツ、給與スヘキ
ニ付テハ自今被服宿直賄炭油等ハ都テ自辨セシメ帽章其
他ノ服制左ノ如ク相定ムルモノトス

- 一 帽章 金本市徽章 徑壹寸四分
- 一 洋服 紺、黒

○鐵管敷設掛職工時間外勤務ニ對スル増給ノ件○鐵管敷設掛定工夫時間外勤務ニ對スル増給ノ件

一服賃 適宜

朝



○鐵管敷設掛職工時間外勤務ニ對スル増給ノ件
明治二十八年一月
市參事會議決

鐵管敷設掛職工ニ勤務時間外ノ勤務ヲ命スルトキハ勤務時間一時間ヲ増ス毎ニ日給百分ノ十五ヲ加ヘ給與スルモノトス

○鐵管敷設掛定工夫時間外勤務ニ對スル増給ノ件
明治二十九年五月
市參事會議決

鐵管敷設掛定工夫ニ時間外勤務ヲ命シタルトキハ職工同様勤務時間ヲ増ス毎ニ日給百分ノ十五ヲ加ヘ給與スルモノトス

○水道工事直備職工人夫使役規則 明治二十八年三月市參事會議決

○水道工事直備職工人夫使役規則

第一條 本工事ニ於テ使役スヘキ職工人夫ハ其身體強壯ナル者ニシテ年齢ハ凡ソ二十歳以上四十五歳以下トシ充分其勞働ニ耐ヘ得ヘキモノタル可シ但其年齡ハ以上ノ如ク定ムルト雖モ充分其勞ニ耐ヘ得ルカ或ハ特種ノ技能アルモノヲ要スル場合ハ此限ニアラス

第二條 直備職工人夫差出人(職工頭)ハ十名乃至二十名ニ對シ小頭一人ヲ置キ掛員ノ指揮ヲ傳達シ又ハ命令ニ從ヒ職工人夫ヲ誘導シテ共ニ勞働セシムヘシ而シテ職工頭若クハ人夫頭ハ始終現場詰切掛員ノ命令ニヨリ其職工人夫ノ取締ヲナスヘシ又其從事セシム可キ事業ト職工人夫ノ員數ニ依リ甲乙混シテ使役スルコトアルヘキモ掛員ノ指定スル小頭ノ命令ヲ拒ムヲ得ス
但掛員ノ見込ニヨリテハ職工人夫ノ數十名以内ト雖モ小頭ヲ附シ或ハ之ヲ置カサルコトアル可シ

第十八類 水道改良

○水道工事直備職工人夫使役規則

五百十八

第三條 職工人夫ノ勞働時間ハ毎日正味九時間トス

第四條 職工人夫ノ休憩時間ハ日ノ長短又ハ季候ノ如何ニヨリ其時々揭示スヘシト雖モ毎日午前午後ニ各一回及ヒ晝餐時ノ三回トシ勞働時間ハ此外タル可シ

第五條 職工人夫ハ總テ毎日其就業時間ニ至リ直チニ就業シ得ル様注意スヘシ

第六條 職工人夫ハ毎朝就業ノ時間十分前ニ於テ總テ掛員ノ面前ニ整列セシメ其着到ヲ改メ一人毎ニ番號札ヲ交付シ以テ當日雇入ノ證票トス而シテ終業後モ又同一ノ手續ニ據リ其人員ヲ改メ番號札ヲ返納セシム若シ此札ニ不足ヲ生スルトキハ其不足ニ對シテハ賃金ノ支拂ヲナサル可シ

第七條 人員檢査ハ前條ノ外臨時之ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ若シ其人員ニ不足アルトキハ又前條ニ準

第十八類 水道改良

○水道工事直備職工人夫使役規則

五百十九

スルモノトス

第八條 直備職工人夫ハ左記ノ範圍内ニ於テ各自ノ技術體格等ニ應シテ其賃金ヲ定ム但並人夫賃ヲ貳拾五錢トス

但辭令書ヲ受領セル職工及ヒ工夫ハ從來ノ規定ニ據ル

- 一人尖頭 一日ノ賃金 參拾五錢乃至四拾五錢
- 一同小頭 同 參拾錢乃至參拾五錢
- 一人夫男 同 貳拾錢乃至參拾貳錢
- 一同女 同 拾錢乃至貳拾錢
- 一煉瓦工 同 四拾錢乃至六拾錢
- 一石工 同 四拾五錢乃至六拾五錢
- 一大工 同 四拾五錢乃至六拾錢
- 一左官 同 四拾錢乃至五拾錢

○水道工事直備職工人夫使役規則

一 鍛冶職 同

參拾錢乃至八拾錢

第九條 直備職工人夫ニシテ數十日間欠勤セス其勞働乘ニ超ユルモノハ其賃金ヲ増給スルコトアル可シ

第十條 職工人夫ニシテ一度増給セシモノト雖モ其爾後出精セサルモノハ掛員ノ相當ト認ムル賃金ニ引下クヘシ

第十一條 職工人夫ハ其從事セシムヘキ事業ノ如何ニヨリ或ル時限内臨時其賃金ヲ増給スルコトアルヘシ

第十二條 職工人夫ノ勞働時間ハ第三條ノ如ク定ムルト雖モ工事ノ都合ニヨリ早出居殘ヲ命スルコトアル可シ此場合ニ於テハ一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割當以テ其使役セシ時間ニ應シテ支拂フヘシ
但夜間降雨又ハ終日水中或ハ泥濘中ニ勞働セシムル等ノ如キ非常ノ場合ニハ本條ノ外其賃金ニ三割以内

ノ増給支拂ヲナスコトアルヘシ

第十三條 左ノ場合ニ該當スルモノ、賃金支拂ハ前條ト同シク其一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割當其就業ノ時間ニ應シテ計算スルモノトス

一 第二十一條ニ該當スルモノ
一 疾病其他本人ノ都合ニヨリ終業時間前ニ退場スルモノ

第十四條 工事上ノ都合ト掛員ノ見込ニヨリ其事業ヲ人頭ニ分割シテ施行セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其割當ヲ受ケタル事業ヲ成就セシメサル中ハ終業ノ定刻ニ至ルト雖モ濫リニ退場スルヲ許サス若シ其業ヲ成就セシムルニ至ラシテ退場ヲ認許シタル場合ニ於テハ其出來高ノ歩合ニ應シ其賃金ヲ支拂フモノトス、但割當スル事業ノ出來シタルトキハ掛員ノ検査ヲ受

○水道工事直備職工人夫使役規則

クヘシ

第十五條 前條ノ如ク其事業ヲ割當施行セシメタル場合ニ於テハ其割當事業ノ出來次第隨時退場スレモ妨ケナシ又本人ノ望ニ依リ更ニ其割當以外ノ仕事ヲ爲サシムルコトアルヘシ而シテ其賃金ハ出來形ニ對シ前條ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第十六條 職工人夫ニシテ疾病又ハ他ノ事故ニヨリ退場セントスルモノハ職工頭若クハ人夫頭ヲ經テ(口)掛員ノ允許ヲ受クヘシ

第十七條 直雇職工人夫若クハ其差出人ハ毎日事業ニ要スル諸器具(梯、鋤、鍬、鋤、鍬、斧、荷)ヲ其所要ニ應シテ供用スヘシ

但煉瓦疊盤ニ用エル水桶遣リ型結成石練蠶水換唧筒其他水換機、起重器、積杆等ハ當所ヨリ貸與スヘシ

第十八條 前條ニ掲クル所ノ供用スヘキ器具ニシテ唯其形ノミヲ存シ實用ニ足ラサルモノ又ハ足ラスト認ムルモノハ直チニ引換ヲ命スヘシ若シ速カニ引換ヘサルトキハ當所ヨリ貸與シ第十九條ノ手續ヲ履行スルモノトス

第十九條 第十八條ニ定ムル處ノ諸器具ハ其差出人ヨリ供用スヘシト雖モ當所ノ都合ニヨリ之ヲ貸與スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ相當料金ヲ其職工賃若クハ人夫賃金ノ内ヨリ控除スルモノトス

第二十條 各職工人夫ハ貸與品ヲ使用シタル場合ニ於テハ終業後二十分以内ニ諸器具器械等ヲ取纏メ返納スヘシ若シ其員數ニ不足ヲ生スルカ或ハ事業中其他故意ニ破損セシメタル場合ニ於テ其不足ノ分ハ三日以内ニ現品ヲ以テ辨償セシメ破損ノ分ハ相當ノ修理ヲ命ス若シ

○水道工事直僱職工人夫使役規則

修繕ヲ爲シ能ハサル程ニ破損セシメタルトキハ不足ノ場合同シク現品ヲ以テ償却ヲ命スヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ其代價ヲ直僱職工人夫ハ其總賃金ノ内ヨリ引去リ又單獨直僱ニ採用サレタル職工人夫ニアリテハ其賃金ノ支拂ヲ止メ本文ノ手續ヲ了リタル後支拂ヲ爲スヘシ

- 第二十一條 職工人夫ニシテ其勞働ニ耐ヘサルモノ若クハ怠惰ナルモノ又ハ事業中他ノ人夫ノ働作或ハ工事上ニ妨害ヲ爲スモノ若クハ爲スト認ムルモノ或ハ掛員ノ指揮命令ニ背戾シタルモノハ直チニ退場ヲ命スヘシ
- 第二十二條 職工頭若クハ人夫頭ニシテ左ノ各項ニ背戾スルモノハ直チニ使役ヲ止ム
 - 一 職工頭若クハ人夫頭ノ職務ヲ盡サ、ルモノ
 - 一 不適當ノ職工人夫若クハ小頭ヲ差出シ引換ヲ命スル

○水道直僱職工人夫募集方法

- モ其命ニ從ハサルモノ若クハ引換ユルモ前同等ノモノヲ差出シ改メサルモノ
 - 一 掛員ノ命スル職工人夫ヲ差出シ得サルモノ
 - 第二十三條 掛員ヨリ特ニ指令シタル職工人夫ハ其差出人ニ於テ自由ニ引換ユルヲ許サス
 - 第二十四條 事業中傳染病又ハ流行病等ニ罹リタルモノアルトキハ差出人ハ速ニ相當ノ手續ヲナシ場外ニ立退カシムヘシ且中癒後ト雖モ相當ノ手續ヲ經タル後ニアラサレハ現場ニ差出スコトヲ許サス
- 水道直僱職工人夫募集方法 明治二十八年三月 市議會 議決
- 第一 水道改良事務所ハ其所要ニ應シ充分信用シ得ルモノヨリ指名シテ職工頭及人夫頭ヲ撰定スルモノトス
 - 第二 本工事ニ要スル職工人夫ハ前項ノ職工頭及人夫頭ニ命シテ差出サシムルモノトス

第十八類 水道改良

○水道直雇職工人夫賃金支拂手續

五百二十六

○水道直雇職工人夫賃金支拂手續
第一 職工人夫賃金ノ支拂期ヲ分ツテ週拂及ヒ月拂ノ二種トス

第二 直雇職工頭及人夫頭ハ其賃金ノ支拂ヲ受ルノ證トシテ適宜見認帳ヲ製シ其日々終業後引揚タル番號札ノ數ヲ照シテ現場主任者及ヒ事務員ノ認印ヲ受ケ置クヘシ

但其見認帳ハ甲乙二冊ヲ製シ賃金請求ノ都度交互使用スルモノトス

第十九類

雜件

○兵役ニ召集セラレタル本市吏員休職ヲ命スル件
明治二十七年九月
市告示第四十八號

豫備後備ノ軍籍ニアル本市吏員(附屬員)ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ其間休職ヲ命スルコトヲ得但休職ヲ命シタル翌月ヨリ俸給ヲ支給セス
休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス

○寄附物件處分方ノ件
明治二十三年三月第
八十四號市會議決

市ノ事業ニ對シ金穀物件ヲ寄附スル者アルトキハ寄附金額五百圓以上及土地建物ヲ除クノ外總テ市參事會限リ處辨スルモノトス但養育院ニ關シ金穀物件ヲ寄附スルトキハ市參事會員養育院長限リ處分スルコトヲ得

○小學校授業料取扱手續及帳簿式制定ノ件
明治二十
六年三月

第十九類 雜件

○兵役ニ召集セラレタル本市吏員休職ヲ命スル件
○寄附物件處分方ノ件
○小學校授業料取扱手續及帳簿式制定ノ件

五百二十七

第十九類 雜件

○小學校授業料取扱手續及帳簿式制定ノ件

市訓令第
八十四號

五百二十八

區 役 所

小學校授業料取扱手續及帳簿式左ノ通之ヲ定ム

小學校授業料取扱手續

第一條 學校長ハ毎月授業料ノ徵收豫定額報告書ヲ調製シ其月二十日限り區長ヘ送付スヘシ

第二條 前條授業料徵收豫定額報告後異動アリタルトキハ其増減ヲ區長ヘ追報スヘシ

但區長ハ異動報告ニ依リ其増減及差引ヲ徵收豫定額報告書ニ記入スヘシ

第三條 學校長ニ於テ授業料ヲ徵收セシトキハ徵收簿ニ記載シ直ニ領收證ヲ發シ即日區長ヘ報告ノ手續ヲナシ現金ハ令狀ニ依リ市税金取扱所ヘ納入スヘシ但徵收金額ハ日計簿ニ記載スヘシ

第四條 學校長ハ前條授業料ヲ徵收シ即日區長ヘ報告ノ手續ニ至リ難キ場合ニハ現金ヲ市税金取扱所ヘ假預ケトナシ翌日報告ヲナスコトヲ得

第五條 學校長ハ其月分授業料未納者アルトキハ其金額人名等取調報告書ヲ調製シ翌月五日限り區長ヘ送付スヘシ

第六條 區長ハ前條未納報告書ヲ受ケタル後未納金ノ納入アリタルトキハ其年月日ヲ未納報告書ニ記入スヘシ

第七條 會計年度閉鎖迄ニ其年度ニ屬スル授業料ノ未納者アルトキハ區長ハ其金額人員(高次)取調報告書ヲ調製シ翌年度六月十日限り市參事會ヘ送付スヘシ

第八條 授業料ニ關スル報告書ハ總テ學校長名トシ學校長缺員若クハ不在ナルトキハ其次席教員代理スヘシ

第九條 區長ハ第一條乃至第五條ノ報告ニヨリ授業料納

第十九類 雜件

○小學校授業料取扱手續及帳簿式制定ノ件

五百二十九

第十九類 雜件

○小學校授業料取扱手續及帳簿式制定ノ件

五百三十

入額ト對比調査ヲナシ未納ニ係ルモノハ其保護者ニ督促スヘシ

第十條 授業料徴收簿日計簿及徴收豫算額報告書并未納額報告書書式ハ別冊ニ定ム

第十一條 幼稚園保育料ハ此手續ニ依リ取扱フヘシ

(別冊)

(減金額、人員、共朱書)

明治何年度何月分何小學校授業料徴收豫定額報告書

區 別	徴收金額	徴收人員	金		人		差
			増	減	増	減	
尋常科一學年							
尋常科二學年							
尋常科三學年							
尋常科四學年							
計							
高等科一學年							

	高等科二學年	高等科三學年	高等科四學年	計

右及報告候也

明治 年 月 日

何區長何某宛

何 區

何高等常小學校長 何

某印

(用紙美濃紙)

明治何年度小學校授業料徴收簿

何區何高等常小學校

(用紙美濃紙)

尋常科高等科ヲ區分調製スヘシ

明治何年度小學校授業料日計簿

何區何尋常高等小學校

明治何年度何月分何小學校授業料未納額報告書

區別	金額	摘要	姓名	區別	金額	摘要	姓名
尋常科一學年		何年何月何日納	何某				
全二學年							
全三學年							
全四學年							
計							
高等科一學年			何某				
全二學年							

右及報告候也
明治年月日

何區長何某宛

何區
何高等小學校長何某印

全三學年	全四學年	計
全	全	

○豫備費ノ支出ニ付市會ノ議決ヲ要スル件 明治二十三年三月
月市會議長ヨリ
市參事會へ通牒

豫備費支出ノ事業中二十二年度ニ於ケル昌平橋架換ノ如キ其他本會ノ議定ヲ經ヘキ猶豫アル事業ハ自今可成本會ノ決議ヲ要サル、様致度旨決議候條此段及報告候也

○街頭便所ヲ各區ノ所屬トスル件 明治二十三年三月
市告示第十四號
本市街頭便所ハ市會ノ議決ヲ經テ明治二十三年度ヨリ各區ノ所屬トス

○兵役ニ召集セラレタル市吏員休職ヲ命スルノ件 明治二十七年九月
市告示第四十八號

兵役ニ召集セラレタル本市吏員休職ヲ命スルノ件市會ノ議決ヲ經テ左ノ通り之ヲ定ム

豫備後備ノ軍籍ニアル本市吏員 附屬員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ其間休職ヲ命スコトヲ

○豫備費ノ支出ニ付市會ノ議決ヲ要スル件 ○街頭便所ヲ各區ノ所屬トスル件 ○兵役ニ召集セラレタル市吏員休職ヲ命スルノ件

7148

第十九類 雜件

○兵役ニ召集セラレタル市吏員休職ヲ命スルノ件

五百三十二

得但休職ヲ命シタル翌月ヨリ俸給ヲ支給セス休職中ノ日
數ハ在職年數ニ算入ス

全 明治三十年五月一日印刷
年全月四日發行

東京市參事會

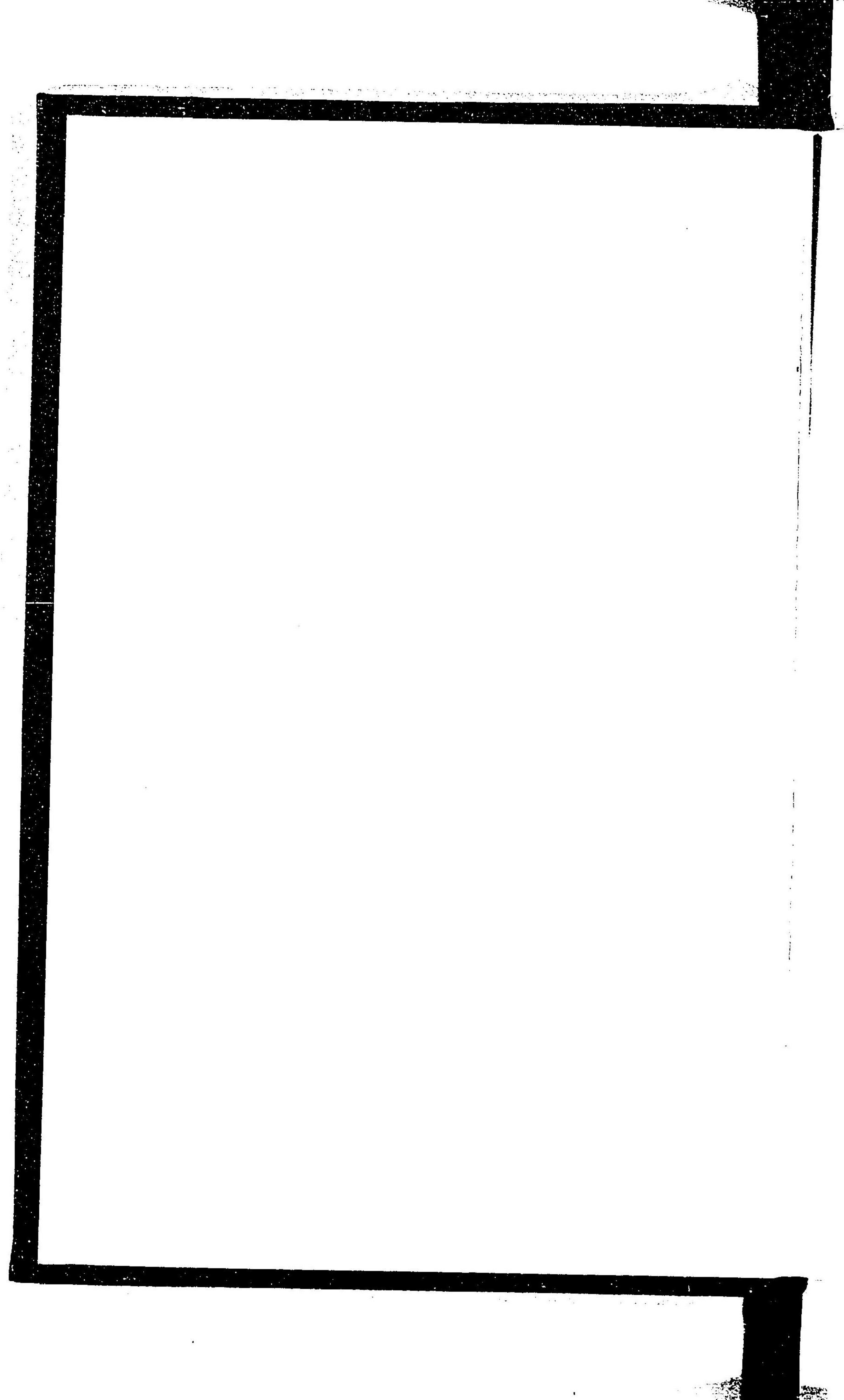
東京市京橋區南鍛冶町三十番地

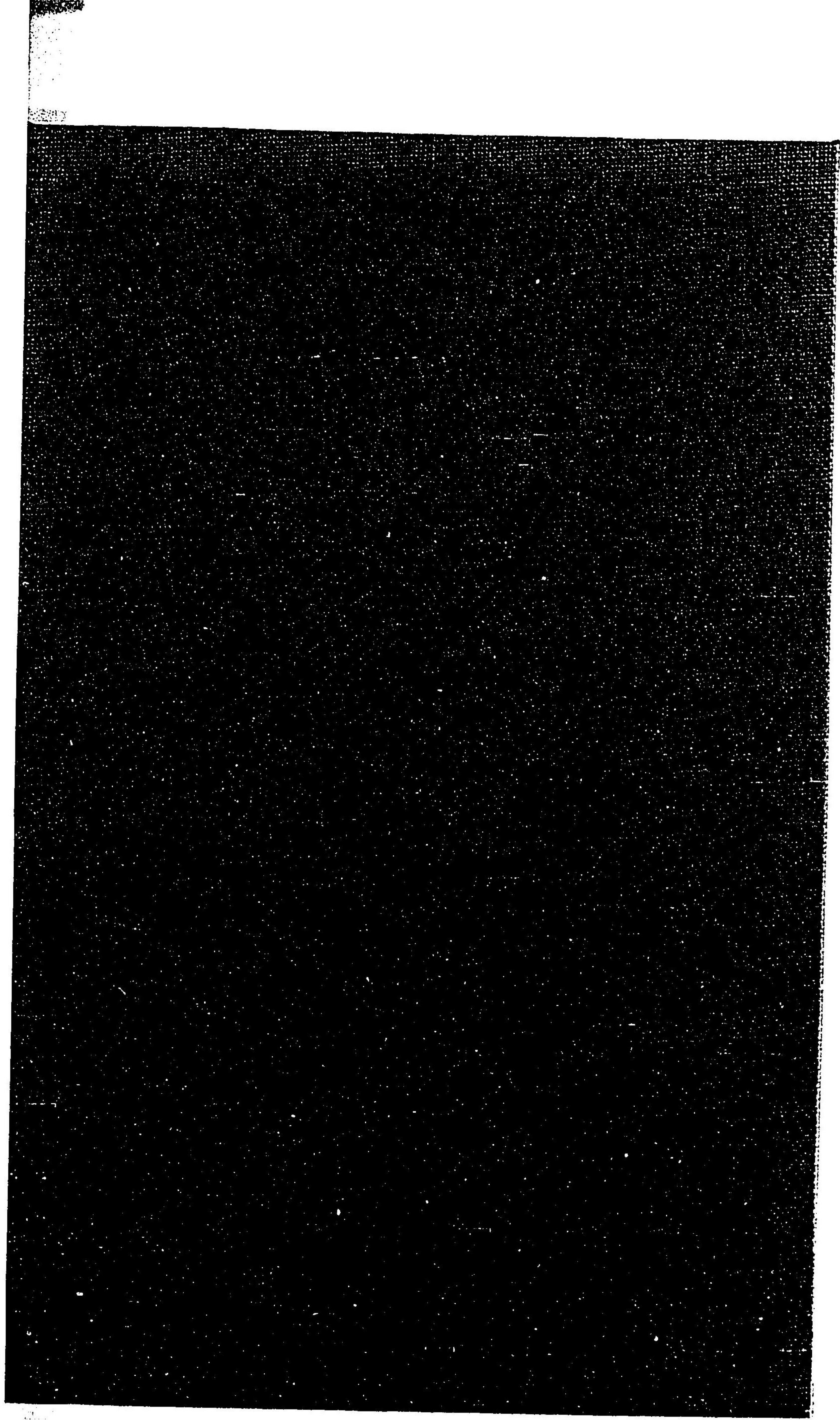
印刷者 若松長三

東京市京橋區南鍛冶町三十番地

印刷所 若松活版所

N
T 84





禁電子式複写

031325-000-3

CZ-1113-37-04

東京市例規類集

東京市参事会

M30

BBD-0514



